

前橋南RC 小島さん協力で水質改善



水澄んだ「さちの池」に

鶴舞う形の本県をかたどった形状で知られる「さちの池」(前橋市大手町)の水質を改善する取り組みを、前橋南ロータリークラブ(中島博会長)が22日から始める。群馬高専名誉教授の小島昭さん(73)が協力して水質浄化装置を設置。1年間管理し、透明度の高い池にする。

前橋公園内にあるさちの池は面積約4200平方メートル。地下水をくみ上げているが、小島さんが水質を調べたところ、窒素やリンの濃度が高かった。水草がほとんどないため土砂が巻き上がりやすく、濁っている。

取り組みは「水辺再生大作戦」と題して、小島さんがリサイクル業の石井商事(高崎市)と開発した「鉄デバイス」を池の北側に沈める。溶け出した鉄イオンでプランクトンが増え、水草が育つ。さらに水草が窒素などを吸収し、水質改善につながる。小島さんは「自

さちの池の水質改善を話し合う中島会長(左)と小島さん

然の力で水をきれいにできる」と特長を説明する。社会貢献活動として

企画した中島会長は『水と緑と詩のまち』と呼ばれる前橋にふさわしい池にしたい」と意気込む。公園を管理する市も「民間からの提案はありがたい」としている。

22日は午前11時から正午まで作業する。その場で池の水質を測定したり、大規模な浄化装置も持ち込む予定。事前申し込み不要で、市民らの見学を呼び掛けている。